

妹背牛中の佐々木さん 珠算検定 1 級で初めての満点合格！

妹背牛中学校2年生の佐々木伶奈さんが、今年2月に行われた珠算能力検定試験（日本商工会議所主催）1級で、初めての「満点合格」を達成しました。全国6千人を超える受験者のうち満点合格はわずか24人で、道内では3人という狭き門。佐々木さんは「応援してくれた塾の先生や家族のために頑張れた。満点を取れて安心しました」と喜んでいます。



表彰状を手に1級満点合格を喜ぶ佐々木さん

佐々木さんは小学2年生の時、母親の勧めで雨竜町の追分地域コミュニティセンターで毎週開かれている長谷川珠算塾に通い始めました。

苦手なわり算を克服し、小学6年生の時、2回目の挑戦で1級に合格。塾の先生から「素直で真面目。満点を目指してみても」と背中を押され、満点合格に挑戦することになりました。

試験は300点満点で、みとり算・かけ算・わり算の計50問を制限時間30分以内に解きます。

試験中は時間との勝負。本番前はほぼ毎日そろばんに触れていた佐々木さんは「集中して計算できました」と振り返ります。

すでに段位検定に挑戦しており、今年6月の試験でみとり算・かけ算・わり算を合わせた「総合3段」に合格することが次の目標です。

岐阜県羽島市出身の堀田一道さん（61）は昨年12月、雪深い北海道のほぼ中央にある妹背牛町に移り住みました。20代のころ、北海道でのツーリングに魅了された堀田さんは還暦を迎えたことを機に一念発起。北海道に移住するという夢を叶えました。

「隣町まで信号機が数個しかない。家が少なく、広大な景色が広がる。ライダーにとって北海道は聖地なんです」

堀田さんはライダーが気軽に集まれる場所をつくるうと、4月から民泊業を始めました。

ライダーハウス2階の宿泊部屋には、旧妹背牛商高があったころの勉強机も。



中学生から社会人まで15年間ほどバレーボールに打ち込んでいた堀田さんは「妹背牛商業高校のバレー部が強く、もせうしの地名は知っていました」と、妹背牛町を移住先の候補の一つに。都市部や観光地への交通アクセスの良さも決め手となり、町内の旧五井旅館を購入し、民泊施設に改修しました。

施設名は、旅館の名称を使った「ライダーハウス 五井旅館」。2階の宿泊スペース（5部屋・定員10人）には、かつて妹背牛商高生が下宿時に使っていた机がそのまま残されています。

堀田さんは「妹背牛は立地が良いので、ライダーや一般のお客さんがここを宿泊拠点に北海道の観光を楽しむ施設になればうれしいですね」と話しています。



「わたしのもせうし時間」は、妹背牛町で暮らす人たちにスポットを当てた不定期企画です！

岐阜県から妹背牛町に移住し、愛猫とともにこの春からライダーハウスを営む堀田さん

